

★ 市民自治講演会開催報告 ★

日時：令和元（2019）年11月7日（木）午後2時～午後4時
場所：吹田市役所中層棟4階 全員協議会室

第1部 講演：市民自治を確立するための市民と自治体の役割 講師：片上 孝洋氏（吹田市市民自治推進委員会 副委員長）

「市民福祉の向上」のための市民と自治体の役割と責任について、自助・共助・公助を通して、以下のとおり講演していただきました。

「市民自治の確立」をするためには、人は一人で生きていけないと理解し、公開性と透明性のある環境が確保された上で、適正な手続きが取られることが必要です。

私たちは、家族、隣人や職場などさまざまな人とつながっているので、災害時だけでなく、日常生活においても自助・共助・公助すべきことを理解しなければ、連携できないどころか何も決めることはできません。

「安心安全のまちづくり宣言」にもあるように、市民同士が思いやりを持ってつながっていくほうが、何か問題があったとしても相談することができますし、取り組みが前に進みます。その結果として、「市民福祉の向上」につながっていくとおっしゃっていました。



第2部 講演：自治（体）基本条例の論点と作成過程 講師：土山 希美枝氏（龍谷大学政策学部 教授）



自治（体）基本条例（以下、「条例」という。）の論点と作成過程について、これまで多数の自治体でコーディネートされた御経験をもとに、以下のとおり講演していただきました。

条例は、市民から見て「市民が自治体を制御するツール」であるとともに、自治体から見て「自分たちが何をどうするか定める基本ルール」ともいえます。

条例を策定した効果として、市民参加条例や財政健全化条例の策定に結びついた事例もありました。

具体的に条例を策定していく過程で重要なポイントとして、条例の最高規範性、住民投票、市民の定義や義務をどのように考えるかということがあります。最高規範性については、はっきりとした定義はないので、基本的なルールであると宣言をしたらいいと思っています。住民投票は非常ベルとしての役割という認識です。住民の定義や義務については、個別の条例で委ねればいいです。他にもポイントはありますが、話し合いや市民の参加や透明化をどう進めるかがとても重要であると考えています。

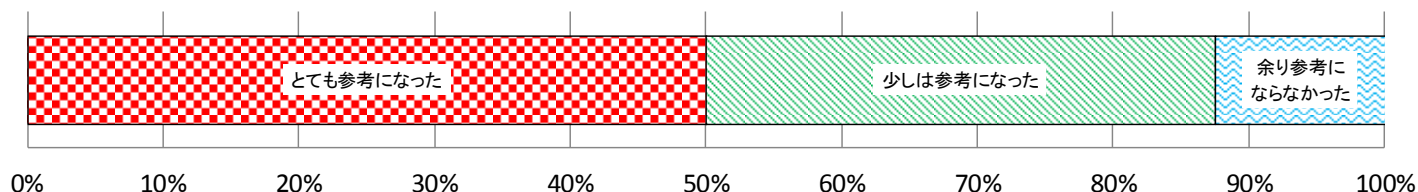
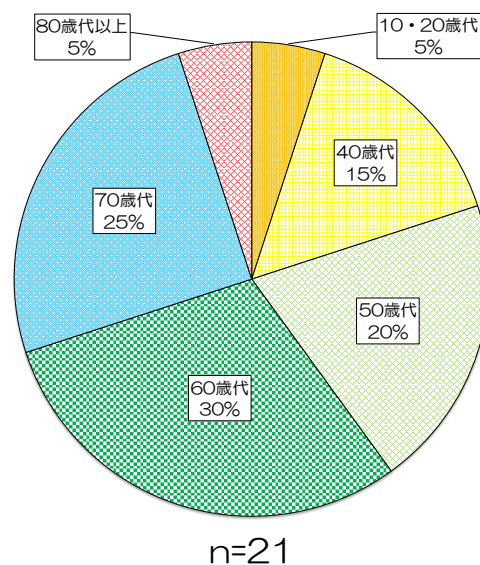
これまでの御経験から、市民益（市民にとっての利益）という観点から議論し、自分たちの答えをつくり出すことが重要だとおっしゃっていました。

～ 来場者アンケート結果 ～

1 回収率 75%
(21/28名 (吹田市市民自治推進委員会委員含む))

2 10、20歳代から80歳代以上までさまざまな年代の方から御回答いただきました (右図参照)。

3 回答者の約90%が、講演の内容について参考になったと回答されました (下表参照)。



4 講演会を受講した感想など (一部抜粋)

- (1) 自治について考えるいい機会となった。
- (2) 自助・共助・公助について、漠然とした捉え方しかできていなかったが、自分なりに定義付けができた。
- (3) 「安心安全の都市 (まち) づくり宣言」の重要性を認識した。
- (4) 教育も大切だが、具体的な共同作業があってこそ、助け合うことの大切さが生まれると思う。
- (5) 市民体育祭や盆踊りといった楽しい行事には、若い人もたくさん参加するので、地域の自治にも関心を持ってもらえるような企画ができればと思う。
- (6) 正解のないことを議論することの大切さを実感した。

5 市民自治推進委員会で取り上げて欲しいテーマや課題 (一部抜粋)

- (1) 自治会加入者の逡減
- (2) 自治会活動の活発なところとそうでないところの格差
- (3) マンションなど多様化する地域文化及びそれらの情報の共有化、集約の方法
- (4) 声を出しにくい、社会的立場の弱い方と市民自治
- (5) 自治団体に対して要望や意見が言える仕組みづくり
- (6) 市民間で市民自治について学ぶ場の企画づくり